を選び、左のデモ・ボタンを押すと、なんとその音色に見合った御機嫌なシーケンスで再生してくれる。そのカテゴリー名もHardbass、Potalead、Arpeggio、Motion、SFXなど思わずニヤッとさせられるものばかり。しかもそのパターンはユーザー登録可能という手の込みようだ。

音色はSupernovaから移植されたものもあるが、ほとんどのプリセットが新たにNova用に作られていたのにも驚いた。Supernovaと比べてどちらかと言うと、よりテクノ系やエレクトロニクスよりの音色が増えている気がするが、いずれもBassStationやDrumStaion Rackに代表されるダンス・ミュージック系の音源を作り続けてきた同社らしい、今どきの即戦力の音色満載といったところだ。プリセットを選び、フィルターやエンベロープをデモ・シーケンスを聴きながらエディットしていくだけでも、思い描いたサウンドにすぐに近付くことができるだろう。僕はフィルター・セクションに付いているオーバードライブ機能が気に入っている。エフェクトの歪みと違ったなんともいい具合のにじみ感を出してくれる。

フィルター・セクションにあるスペシャル・フィルターはSupernova同様"工事中"だが、購入した時点ですべてのパフォーマンスが出そろっているよりも、こうした遊び心をも含んだ設計に期待と共に愛着を感じてしまうのは僕だけだろうか。音色やデータ値を変えるツマミに新たにクリックが付いたことも、地味だが現場からのフィードバックに細かく対応している証拠だろう。また、ボタンも実は一新されていて、その点灯が見やすくなり、さらにプッシュ時にROLAND SBX-80の電子クリックのようなかわいい小さな音がするようになった。

## エフェクトとアルペジエーターを各パートごとに設定可能

こんなソフト面、ハード面共に気を配る心優しいシンセとも言えるNovaの、Supernovaゆずりのアイディアをもう少し紹介しておく。本機にも今やほとんどのシンセに内蔵されているエフェクト・セクションとアルペジエーター・セクションがある。

エフェクト・セクションにはディストーション、EQ、リバーブ、ディレイ、コーラス、フランジャー、フェイザー、パンニングなどのエフェクトが搭載されている。ディレイに関しては、MIDIクロックにもシンクし、なんと32分の3連から符点8分、2拍3連はもちろん、符点8小節（12小節）などと言うスターウォーズ的に気の遠くなるものまで設定できる。Novaではこれらのエフェクト同士をシリアルにしたりパラレルにしたり、組み合わせたりといった複雑なルーティングも可能となっている。

しかし優れているのは、それらのエフェクトをマルチの6パートの音色それぞれ個別に設定でき、個別のアウトプットから出力できる点だ。パート1のBassにフランジャーを施してアウトの1から出力、パート2のキックにディストーションとEQを施しアウト2から出力、パート3のパッドにフェイザーとリバーブ、ディレイを施しアウト3、4から出力……なんてことがいとも簡単に行なえる。それぞれのパートのカットやソロがボタン1つでコントロールできるので、まさにライブでのリアル・タイムの"ツマミスト"プレイをサポートしてくれる。

さらに本機はアルペジエーターをもエフェクト同様、マルチに6パートの音色それぞれ個別に設定でき、個別のアウトプットから出力できる。このアルペジエーターがまたSupernovaのもう1つの魅力で、Novaにも完璧に受け継がれている。今どきのシンセらしく考えられるあらゆるパターンは網羅されているが（モノとポリで合計256プリセット）、これはアルペジエーターというよりもTR-808、TB-303のようなシーケンス・フレーズ・パターン制作機と言った方がよいだろう。ステップ数を決め、例えば「4声の何音目を何ステップ目に鳴らす」と設定できる。しかもそれぞれのVelocityやGateが自在にプログラムでき、GateはパーセントどころかTie、Restなどで想像通りの反応をみせ、驚くべきことにGlde(Glide)に設定すると、そのノート間だけTB-303タイプのポルタメントがかかる。

幾つかのパートをラッチ（鍵盤を放してもホールドし続けるモード）して、マスター・キーボードの鍵盤上にアサインし、前述のエフェクトと組み合わせておいて、左手で鍵盤、右手でツマミ演奏……。楽しい夜が更けていくのがだれにでも容易に想像できることだろう。

## ボコーダーとしても使える外部入力を新たに装備

Supernovaに無かった機能で最も大きな点が外部入力ができ、かつ40バンドのボコーダーとして使用できるところだ。これは2つあるインプットにマイクだろうがプレイクビーツだろうが、内部音源（キャリア）に対してその入力された信号の周波数特性をコピーするモジュレーターとして使えるものだ。インプット・レベルは大きく4段階可変の切り替えスイッチが付いているが、これはできれば微妙なマイクでの音声入力をより受けやすいツマミにしてほしかったところだ。

しかし、ハイパス、ノイズの切り替えによるレベル可変のシビランス・コントロールやそのスペクトラムを表示するアナライザーまでメニューにあり、なかなか楽しませてくれる。特にシビランス・レベルでコントロールするハイパス・フィルターの倍音変換は独特で、モジュレーター中のS音に関連した高周波成分がキャリア信号にうまく付け加えられる。例えば、マイク入力によるボイスとそれをモジュレーターとした本体のスイープ・パッドの組み合わせなどに内蔵のエフェクトもかけられたり、それらのバランスを細かく調整することによって思いもよらぬサウンドを生み出せそうだ。

さらにディスコ・ミキサーからラテンもののレコードを入力し、オシレーターのウェイブ・フォームのSpecialをオーディオ・インプットにしてみた（これもSupernovaでは工事中のままだ）。Novaではオーディオ・インプット1～2がオシレーターとしても選択できるようになっていた。効きのいいフィルター・セクションでなまらせた音はなかなか音楽的ないい感触のものだったし、24dBのハイパスではきれいにシェイカーだけを残し切れていった（もちろんこれにも内蔵のエフェクトをかけられる）。

また、ボコーダー・モードで前述のシビランス・コントローラーをノイズに設定した場合には、高域だけでなく低域もコントロールできるので、ドラム・ループ素材の入力でも十分楽しめる設計になっている。この設定はパフォーマンス・モードでは任意のパートだけに選択することが可能なので、ライブでも使いやすいだろう。

§

このようにNovaは、Supernovaの確かなサウンドと幅広く音楽的なツール、ツマミとボタン操作による快適快楽な操作環境をほぼ完璧に受け継ぎ、新たなるメニューを盛り込み、かつライブなどのよりシビアな瞬発力を要求されるツマミストの現場での操作性、居住性を考慮した……つまりどっちがスーパーだか実は分かんないじゃん的な音源モジュールだ。電源部分もひそかに各種電圧に対応できるようになっていたり（これは僕らのようなミュージシャンにはとても助かる仕様なんです！　各メーカーもぜひ御一考を）、ヘッドフォン・アウト（これだけステレオ・ミニ・フォーンになったのは少し残念）を使ってでもパラアウトの数を増やすなど、ユーザーの期待する「もうちょっとのところ」へたどり着くための努力を惜しまないメーカーだなと再認識させてくれるマシンでもある。さまざまなライブやクラブ・イベントで、マスター・キーボードの上やシーケンサーの横に本機の深いブルーの姿を見かける日も近いだろう（うーん、人が使う前にライブ用に買っちゃおうかなあ）。

### SPECIFICATIONS

- ■音源方式／アナログ・サウンド・モデリング
- ■同時発音数／12音
- ■マルチティンバー数／6パート
- ■ボイス構成（1音につき）／3オシレーター、2リング・モジュレーター、ノイズ
- ■フィルター・スロープ／12、18、24dB/oct
- ■フィルター・タイプ／ローパス、ハイパス、バンドパス
- ■ボコーダー／40バンド（ポリ数の減少なしにシンセ音源と同時使用可能）
- ■オーディオ出力／6アサイナブル・アウト
- ■オーディオ入力／2（入力感度4段階切り替え）
- ■音色メモリー／256プログラム、128パフォーマンス
- ■外形寸法／383(W)×63(H)×193(D)mm
- ■重量／4kg

◆問合せ：セレクトインターナショナル　☎047-374-0792